

西濃桃李高等学校 通信教育実施計画

教科	外国語	科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	4 単位
対象学年	第 2 学年				
授業担当者	一柳 道樹				
使用教科書	All Abroad English CommunicationⅡ	副教材	ワークブック 東京書籍		
スクーリング	必要出席時間数	4 単位×4 =16 時間以上	スクーリングとレポートを両方合格 することで履修が認められる。		
レポート	必要提出枚数	4 単位×3 =12 枚			
期末試験	合格得点目標	平均点の半分 以上	考查範囲のスクーリング受講とレポート提出が受験要件		

【科目の目標】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができる。 必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができる。	本文や会話などから概要や要点を正しく捉え、自分の考えを持つことができる。また、自分の考えや気持ちを文章にして表現することができる。	基本的な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどをまとめ、話したり書いたりして伝え合おうとしている。

【年間指導計画】 ※学習方法欄の○は週5週3、□は週1在宅・配当時間は週5生を基準とする。

月	指導単元・項目	学習方法			レポート (<input type="checkbox"/> 切期日)	評価の観点			配当 時間
		スクーリング	レポート	試験		知	思	主	
4	Pre-Lesson	○				○	○	○	1
	Lesson1 A colorful island	○	○□		No. 1→4/25	○	○	○	3
5	Lesson2 With the Beatles	○	○□		No. 2→5/16	○	○	○	3
	Lesson3 Wild Men	○	○□		No. 3→5/30	○	○	○	3
6	Lesson4 Little Hero	○□	○□		No. 4→6/13	○	○	○	3
	Lesson5 Special Makeup in Kabuki	○□	○□		No. 5→6/27	○	○	○	3
7	Grammar	○□	○□		No. 6→7/11	○			1
	Lesson6 Seeds for Future Generation	○□	○□			○	○	○	3
8	期末試験対策	○				○			2
9	前期期末試験			○□		○	○	○	
	Lesson6 続き	○	○□		No. 7→9/12	○	○	○	1
	Lesson7 Over the wall	○	○□		No. 8→9/26				3
10	Lesson8 Inspiration from Nature	○	○□		No. 9→10/24	○	○	○	3
11	L9 The Bitter Truth behind Chocolate	○□	○□		No. 10→11/21	○	○	○	3
	Grammar	○□	○□		No. 11→11/28	○			1
12	Grammar	○□	○□		No. 12→12/5	○			1
1	期末試験対策					○			1
	Read(1)	○□				○	○	○	2
2	後期期末試験(1,2年)			○□		○	○	○	1
	Read(2)	○				○	○	○	3
3	1年間の総復習	○				○	○	○	3

西濃桃李高等学校 通信教育実施計画

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	2	単位
対象学年	第 2	学年				
授業担当者	西濃 桃李	安江 麻里				
使用教科書	東書「新編化学基礎」(生基 702)	副教材	ニューサポート新編化学基礎			
スクーリング	必要出席時間数	2 単位×1	= 2 時間以上	スクーリングとレポートを両方合格 することで履修が認められる。		
レポート	必要提出枚数	2 単位×3	= 6 枚			
期末試験	合格得点目標	20	点以上	考査範囲のスクーリング受講とレポート提出が受験要件		

【科目の目標】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

【年間指導計画】 ※学習方法欄の○は週5週3、□は週1在宅・配当時間は週5生を基準とする。

月	指導単元・項目	学習方法			レポート (×切期日)	評価の観点			配当 時間
		スクーリング	レポート	試験		知	思	主	
4	1 編 化学と人間生活 1 章 化学とは何か 2 章 物質の成分と構成元素	○	○□		No.1	○	○	○	1 5
5	2 編 物質の構成 1 章 原子の構成と元素の周期表 (1 節 原子の構造)	○	○□		No.1 5/10 No.2	○	○	○	2 5
6	(2 節 電子配置と周期表) 2 章 化学結合 (1 節 イオンとイオン結合、 2 節 分子と共有結合)	○□	○□		No.2 6/14 No.3	○	○	○	2 5
7	(3 節 金属と金属結合、4 節 化学結合と物質の分類)	○□	○□		No.3 7/12	○	○	○	4
8	試験対策								
9	前期期末試験 テスト直し 3 編 物質の変化 1 章 物質質量と化学反応式 (1 節 原子量・分子量・式量～ 3 節 溶液の濃度)	○□	○□	○□	No.4	○	○	○	5

10	(4節 化学反応の表し方~5節 化学反応式の表す量的関係) 2章 酸と塩基 (1節 酸と塩基、2節 水素イ オン濃度とpH)	○□ ○□	○□ ○□		No.4 10/11 No.5	○ ○	○ ○	○ ○	2 5
11	(3節 中和反応と塩の生成、4 節 中和滴定) 3章 酸化還元反応 (1節 酸化と還元、2節 酸化 剤と還元剤)	○□ ○□	○□ ○□		No.5 11/8 No.6	○ ○	○ ○	○ ○	2 4
12	(3節 金属の酸化還元反応)	○□	○□		No.6 12/13	○	○	○	4
1	試験対策			○□		○	○		2
2	後期期末試験(年) テスト直し (4節 酸化還元反応の応用)					○	○	○	4
3	終章 化学が拓く世界					○	○	○	6

西濃桃李高等学校 通信教育実施計画

教科	国語	科目	古典探究	単位数	4 単位
対象学年	第 2 学年				
授業担当者					
使用教科書	新編古典探究 東書	副教材	新編古典探究 学習課題ノート		
スクーリング	必要出席時間数	4 単位 × 1 = 4 時間以上	スクーリングとレポートを両方合格することで履修が認められる。		
レポート	必要提出枚数	4 単位 × 3 = 12 枚			
期末試験	合格得点目標	20 点以上	<small>考查範囲のスクーリング受講とレポート提出が受験要件</small>		

【科目の目標】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めようとする。	「読むこと」の領域において、論理的に考える。力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典を通して先人のものの見方、感じ方、考え方と関わる中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとする。

【年間指導計画】 ※学習方法欄の○は週5週3、□は週1在宅・配当時間は週5生を基準とする。

月	指導単元・項目	学習方法			レポート (×切期日)	評価の観点			配当 時間
		スクーリング	レポート	試験		知	思	主	
4	古文 I-1 説話に親しむ 古文 I-3 作り話を読む	○	○□		No.1, 2 4/26	○	○	○	6
5	古文 I-2 随筆を読む 『徒然草』『方丈記』	○	○□		No.3, 4 5/31	○	○	○	5
6	漢文 I-1 故事と小話 漢文 I-2 唐詩と文	○□	○□		No.5, 6 6/28	○	○	○	8
7	古文 I-4 和歌の世界 『小倉百人一首の世界』	○□	○□		No.7 7/12	○	○	○	3
8	試験対策								
9	前期期末試験 古文 I-5 日記を読む	○	○□	○□	No.8, 9 9/27	○	○	○	7
10	古文 I-6 軍記物語を味わう 『壇の浦の合戦』	○	○□		No.10 10/25	○	○	○	4
11	漢文 I-3 史記を読む 『瀕門之会』『四面楚歌』	○□	○□		No.11 11/29	○	○	○	7
12	漢文 I-4 中国の知恵 『出藍誉』『侵官之害』	○□	○□		No.12 12/13	○	○	○	7
1	試験対策	○□	○□			○	○	○	3
2	後期期末試験(1,2年) 古文総復習			○□		○	○	○	3
3	漢文総復習	○				○	○	○	3

西濃桃李高等学校 通信教育実施計画

教科	数 学	科目	数 学 B	単位数	2 単位
対象学年	第 2 学年				
授業担当者					
使用教科書	数学B Standard 東京書籍		副教材	WRITE 数学B 東京書籍	
スクーリング	必要出席時間数	2単位×1 = 2時間以上		スクーリングとレポートを両方合格 することで履修が認められる。	
レポート	必要提出枚数	2単位×3 = 6枚			
期末試験	合格得点目標	偏差値の 半分以上		考查範囲のスクーリング受講とレポート提出が受験要件	

【科目の目標】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数学は何千年もの年月を経て発展し、現在でも活発に研究され進化している。普段の生活の場面で、その数学の知識や技能を身に付ける能力を養う。	数列、統計的な推測、数学と社会生活を学び、世界共通の表し方と記法を身に付け、これらを用いて論証を進める能力を養う。	教科書の例や例題の内容を理解し、解法の書き方を覚え、それに沿って練習問題で自分の解答を作る能力を養い、学んだ事を人に説明する力を付ける。

【年間指導計画】 ※学習方法欄の○は週5週3、□は週1在宅・配当時間は週5生を基準とする。

月	指導単元・項目	学習方法			レポート (<input type="checkbox"/> 切期日)	評価の観点			配当 時間
		スクーリング	レポート	考查		知	思	主	
4月	数 列 (1)漸化式の帰納的定義 (2)等差数列とその和	○□	○□		No.1 4/19	○	○	○	6
5月	(3)数学的帰納法の導入 (4)等比数列とその和式	○□	○□		No.2 5/16	○	○	○	6
6月	(5)数列の和と記号Σ (6)隣接二項間漸化式	○□	○□		No.3 6/13	○	○	○	7
7月	確率分布(1)確率の計算	○□	○□		No.4 7/12	○	○	○	2
8月	前期期末考查対策授業	○□	○□						2
9月	(2)確率分布と期待値 (3)分散と標準偏差	○□	○□	前期期末考查 ○□	No.5 9/12	○	○	○	6
10月	(4)確率分布と標準偏差 (5)分散の簡便法	○□	○□		No.6 10/24	○	○	○	5
11月	(6)反復試行の確率分布	○□				○	○	○	5
12月		○□				○	○	○	3
1月	(7)二項分布	○□				○	○	○	4
2月	学年末考查対策授業 (8)二項分布の平均と分散	○□		学年末考查 ○□		○	○	○	6
3月	(9)正規分布の平均と標準偏差	○□				○	○	○	4

西濃桃李高等学校 通信教育実施計画

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	4 単位
対象学年	第 2 学年				
授業担当者					
使用教科書	新数学Ⅱ 東京書籍	副教材	ニューファースト新数学Ⅱ 東京書籍		
スクーリング	必要出席時間数	4 単位×1 =4 時間以上	スクーリングとレポートを両方合格 することで履修が認められる。		
レポート	必要提出枚数	4 単位×3 =12 枚			
期末試験	合格得点目標	平均点の半分 以上	考査範囲のスクーリング受講とレポート提出が受験要件		

【科目の目標】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数学は何千年もの年月を経て発展し、現在でも活発に研究され進化している。普段の生活の場面で、その数学の知識や技能を身に付ける能力を養う。	方程式・式と証明、図形と方程式 三角関数、指数・対数関数を学び、 世界共通の表し方と記法を身に付け、 これらを用いて論証を進める能力を養う。	教科書の例や例題の内容を理解し、 解法の書き方を覚え、それに沿って練習問題で自分の解答を作る能力を養い、 学んだ事を人に説明する力を付ける。

【年間指導計画】 ※学習方法欄の○は週5週3、□は週1在宅・配当時間は週5生を基準とする。

月	指導単元・項目	学習方法			レポート (<input checked="" type="checkbox"/> 切期日)	評価の観点			配当 時間
		スクーリング	レポート	試験		知	思	主	
4	方程式(1)乗法公式と2項定理	○	○□			○	○		4
	(2)方程式の解の種類	○	○□			○	○	○	4
5	複素数(1)解と係数の関係	○	○□		No. 1→5/10	○	○	○	4
	(2)剰余定理と因数定理	○	○□		No. 2→5/31	○	○	○	5
6	(3)3次方程式の解法	○□	○□		No. 3→6/14	○	○	○	4
	(4)恒等式の証明	○□	○□		No. 4→6/21	○	○	○	3
	座標(1)内分点と外分点	○	○□		No. 5→6/28	○	○		3
7	方程式(1)直線の方程式	○□	○□		No. 6→7/12	○	○	○	3
	(2)円の方程式	○□	○□			○	○	○	3
8	前期期末考査対策	○				○			2
9	前期期末考査			○□	No. 7→9/27	○	○	○	1
	領域(1)方程式と軌跡	○	○□			○	○	○	3
	(2)不等式の表す領域	○□	○□			○	○		3
10	三角関数(1)三角関数とグラフ	○	○□		No. 8→10/11	○	○	○	2
	(2)補角公式と余角公式	○	○□		No. 9→10/25	○	○	○	3
11	(3)三角関数の加法定理	○□	○□		No. 10→11/8	○	○	○	3
	指数対数(1)指数関数とグラフ	○□	○□		No. 11→11/22	○	○	○	4
12	(2)対数関数とグラフ	○□	○□		No. 12→12/13	○	○	○	4
1	期末試験対策	○□				○			2
2	後期期末試験(1,2年)	○		○□		○	○	○	1
3	1年間の総復習	○				○	○	○	3

西濃桃李高等学校 通信教育実施計画

教科	地理歴史	科目	地理総合	単位数	2 単位
対象学年	第 2 学年				
授業担当者					
使用教科書	地理総合 東書	副教材	地理総合ワークノート		
スクーリング	必要出席時間数	2 単位 × 1 = 2 時間以上		スクーリングとレポートを両方合格することで履修が認められる。	
レポート	必要提出枚数	2 単位 × 3 = 6 枚			
期末試験	合格得点目標	20 点以上		考査範囲のスクーリング受講とレポート提出が受験要件	

【科目の目標】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性など、さまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。

【年間指導計画】 ※学習方法欄の○は週5週3、□は週1在宅・配当時間は週5生を基準とする。

月	指導単元・項目	学習方法			レポート (×切期日)	評価の観点			配当 時間
		スクーリング	レポート	試験		知	思	主	
4	第1編 第1章 私たちが暮らす世界	○	○□		No. 1 4/29	○	○	○	2
5	第2章 地図や地理情報システムの役割	○	○□		No. 1 4/29	○	○	○	3
6	第3章 人々の生活文化と多様な地理的環境	○□	○□		No. 2 5/27	○	○	○	4
7	第2編第1章 生活文化と自然環境① 第2章 地形さまざまな地球的課題と国際協力	○□	○□		No. 3 7/1	○	○	○	2
8	試験対策								
9	前期期末試験 第2編第1章4節「生活文化と産業」	○	○□	○□		○	○	○	3
10	第2編第2章1節「地球環境問題」2節「資源・エネルギー問題」	○	○□		No. 4 9/30	○	○	○	4
11	3節「人口問題」4節「食料問題」 5節「居住・都市問題」6節「民族問題」	○□	○□		No. 5 10/28	○	○	○	4
12	7節「持続可能な社会の実現をめざして」 第3編第1章自然環境と防災	○□	○□		No. 6 11/25	○	○	○	2
1	第2章 生活圏の調査と地域の展望	○□				○	○	○	3
2	後期期末試験(1,2年)	○	○□	○□		○	○	○	3
3	一年間の総復習								3

